

---

# 傷付きたがりやの小唄

森下 加夜子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

傷付きたがりやの小唄

### 【Nコード】

N0455F

### 【作者名】

森下 加夜子

### 【あらすじ】

一つの小さな失恋から最後のチャンスまで。

## （前書き）

初めは詩として書いた物を引き延ばして作りました。小説らしくはないので、ご注意ください。

一人で歩く人混みの中  
二人で歩く彼奴見つけた  
隣の彼女可愛い彼女  
微笑みあつて遠ざかる背中  
立ち尽くして人にぶつかる  
心が沸いて涙溢れそう

私は言つた茶化して言つた  
昨日の彼女可愛いかったね  
彼奴は焦つて照れながら言つた  
この事は俺との秘密の約束  
私は笑つて頷いて見せた  
友達の秘密ばらすわけないよ

今年も夏が暑さ連れてきた  
毎年恒例の花火大会ももうすぐ  
彼奴は来た一人きりで来た  
私は聞いた彼女はどうしたの？  
彼奴は言つた照れながら言つた  
皆と一緒に行けと言われたと

のろける彼奴苛立つ私  
人の幸せを一人呪う私  
気が付けばここに残された二人

皆とはぐれて二人ぼつちの二人  
嬉しい筈の二人きりに  
陰を落とす可愛いあの子

空が鳴った光が咲いた  
闇に溶ける燃える花びら  
手を引かれて思い出の場所へ  
君は知ってる？何も言わないけど  
私は去年の今日から君が好き

戻る静寂気まずい空気  
喉を鳴らせず蹲る言葉  
ただただ並んで夜闇見つめる二人  
火花に変わって瞬く星空  
鼓動の音がどうか届きませんように

静かな声で彼奴が言った  
そろそろ帰ろうと彼奴が言った  
二人の秘密の時間が終わる  
私の密かな恋の時間が終わる  
それが寂しくて足が動かない

不審に思つて振り向く彼奴  
いつの間にか溢れてた涙  
心配そうに駆け寄る彼奴今この瞬間の彼奴には私だけ  
なんて浅ましくて汚い私

二人の耳を支配する泣き声  
ずっと黙って側に居てくれる君  
そんな所が好きで好きでたまらない  
もしもこのまま、私が笑わなかったら  
君はずっと側にいてくれる？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0455f/>

---

傷付きたがりやの小唄

2010年10月28日08時41分発行